第 I 部 溶接界の動き

1 学会活動

2005 JWS Activities

西 本 和 俊*

by NISHIMOTO Kazutoshi*

キーワード：総会、会勢、学会誌、全国大会、国際活動、教育、研究活動、支部活動、連携

溶接学会第73回通常総会（平成17年4月21日、日本教育会館）で平成16年度事業報告・収支決算および平成17年度事業計画・収支予算などが審議可決された。特別員1名が推薦され、溶接学会賞（1件）、溶接学会功績賞（1件）、溶接学会貢献賞（3件）、溶接学会業績賞（3件）、佐々木賞（3件）、田中亀久人賞（1件）、溶接学会論文賞（3件）、溶接学会論文奨励賞（3件）、溶接学術振興賞（3件）、妹島賞（1件）、溶接学会ベストオーサー賞（3件）および溶接学会研究発表賞（10件）の受賞が行われ、溶接技術奨励賞（10件）、溶接技術普及賞（11件）、溶接学会シンポジウム賞（3件）、溶接学会奨学賞（17件）が紹介されるとともに、フェロー（8名）の認定が行われた。

本会は、従来から学会活動の充実と活性化を目指した積極的な活動（MeRIT-21プラン）を行っており、会勢拡大への活動を鋭意続けている。本年度において会員増強推進委員を約170名任命するとともに、会長・副会長、理事および各研究委員会を通じて、入会勧誘キャンペーンを実施した結果、会員数は372名減少したが、会員獲得数は311名であり、現在の社会構造の変化や企業を取り巻く状況を反映して会員数は依然として低迷の傾向が続いているものの、その減少傾向には歯止めがかかった。平成18年2月末現在の会員数は、賛助員393社（974口）、団員52団体、個人会員3293名となった。会勢の拡張については、企画委員会を中心に会員増二次キャンペーンを計画するとともに、支部へのフォローを行い、積極的かつ継続的に入会勧誘を行うこととした。一方、財政改善に対して賛助員会費値上げを行うこととした。

一方、学会活動そのものは、会員の努力により各分野で活性化している。溶接情報の発信の充実と活性化を図るため、論文集と全国大会講演概要の電子化を完了し、国立情報学研究所(NII)の電子図書館サービス(NACSIS-ELS)および科学技術情報発信・流通システム(J-Stage)の各システムへ対応している。また、論文査読期間短縮に向け、査読システムの電子化、レビューボードの設置および発刊作業の見直しを実施した。電子査読システムの推進によるメリットとして、論文掲載までの期間がおおむね6～7ヶ月に短縮された。平成18年度からの論文集WEB化のスケジュールを策定し、WEB発刊に向けて着実に準備中である。

学会の主な活動は以下の通りである。

a) 溶接学会誌、溶接学会論文集の刊行：本誌74巻1～8号が発刊された。溶接学会論文集23巻第1～4号が発行された。全国大会講演概要は第76集および第77集が発行された。

b) 全国大会：平成17年4月20日～22日に開催された春季大会（日本教育会館）では、延べ約1000名が参加し、シンポジウム、フォーラム、研究発表などが行われた。平成17年9月20日～22日に開催された秋季大会（福井大学文京キャンパス）では、延べ約1500名が参加し、特別講演、フォーラム、ワークショップ、技術セッション、研究発表などが行われ、盛況な大会であった。

c) 国際活動・国際協力：平成17年7月10日～15日に第58回国際溶接学会(IIW)年次大会がブラハにて開催された。加盟国42ヶ国から686名が参加し、非常に盛大な大会であった。また、平成17年3月29日にクアラルンプール、6月24日にソウル、10月21日にムンバイで開催されたアジア溶接連盟(AWF)総会に参加するとともに、若手会員の海外活動への支援を行った。一方、25ヶ国60雑誌と会誌・論文集の交換を行うとともに、学術交流協定を結んでいる海外学協会と学術交流を実施した。

d) 教育・普及活動

本会は、溶接技術基礎講座、溶接工学夏季大学および工業高校教員のための溶接夏期講座を開催した。また、教育委員会では、国際溶接学会(IIW)溶接技術者資格制度特認コースの立ち上げ、運営実施について、日本溶接協会ならびにJ-ANBと連携作業した。全国の大学・高専に対して、IIW特認コースについてのアンケートを実施し、IIWシラバスと授業科目の関連や溶接基礎教育などに関して調査した。また、溶接学会各支部や研究委員会、日本溶接協会が企画・実施した講習会やセミナー、シンポジウムのIIW履修ポイントを制定するとともに、大学・高専の授業科目のIIW履修ポイントへの読み替えなどを明らかにした。

e) 研究委員会活動：第III部参照。

f) 他学協会との連携：関連学協会との協力を進め、研究会、講演会などの共催、後援あるいは協賛を行った。また、国内20学協会と会誌・論文集の交換を行った。さらに、企画委員会では、(社)日本溶接協会との連携をより一層深めるため、教育、研究委員会、情報、国際活動などの分野について、連携の現状と将来の可能性について検討した。

g) 支部活動：各支部において、支部会員、賛助会員を対象とした講演会、シンポジウム、講習会、見学会などを活発に開催した。本部と支部および支部間の連携強化を図るため、支部長連絡会議を秋季全国大会期間中に開催した。

原稿受付 平成18年4月20日

*正 員 大阪大学大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻 Member,
Department of Materials & Manufacturing Science,
Graduate School of Engineering, Osaka University